

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	3月	12日	(記入者) 灰藤健一	
取材参加者	秋山	大谷	神野	鈴木	灰藤
	東辻	本井			
取材対象先	王寺町：達磨寺の木造千手観音坐像				

所在地	北葛城郡王寺町本町2-1-40				
所有者(取材 対応者)名	達磨寺(王寺観光ボランティアガイドの会*		連絡先 ****_*_*_****		
	*氏**氏) (個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：王寺観光ボランティアガイドの会				
市町村 指定文化財	彫刻	1躯	木造千手観音坐像 2005(平成17)年3月8日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	保存状態が概ね良好で、中世以前に遡る千手観音では坐像が珍しいこと、本寺の千手観音の手が元は500手もあるのが珍しく、町指定文化財とされた。				

文化財の状況

防火対策	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
		堂内に火災警報装置が備え付けられている。
獣害対策	被害の有無、対策など	記入者の感想
		獣害被害特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の 課題と対策	本像は、当初、手が500手で千手が表されていたと考えられるが、現在はかなり減っている。ただ、減った経緯は不明である。建物自体がまだ新しいので、現状としては課題はないと考える。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

本寺の本尊である木造千手観音坐像は、元は境内南東に建つ1667年建立の方丈に安置されていたようである。本堂は平成16年に落慶され、以後、資料展示室として国指定の重要文化財である鎌倉時代制作の木造聖徳太子像、同じく室町時代足利義教の命による制作の木造達磨坐像とともに安置されている。平日、通常は本堂は閉められて、土日は王寺観光ボランティアガイドの協力で、拝観者を案内。建物全体の印象から、文化財の保護という面では対策は取られていると考える。

市町村指定文化財取材票 《裏》

取材日	2023年	3月	12日	(記入者) 灰藤健一	
取材参加者	秋山	大谷	神野	鈴木	灰藤
	東辻	本井			
取材対象先	王寺町：達磨寺 の木造千手観音坐像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 木造千手観音坐像

千手観音坐像 (正面写真)



千手観音坐像 (角度を変えて)



達磨寺本堂 (千手観音坐像他が安置されている)

本尊を中心に国指定重文が両脇に安置



文化財の由緒・特徴・説明板の有無など

聖徳太子の愛犬雪丸像が境内にある

像高76.5cm、寄木造。現状では大手が4本、中手が32本、小手は392本。全ての手に玉眼で眼が表現されている(達磨寺パンフレットより抜粋)。構造や形式の特徴から、室町時代初期の院派仏師の造像とされている点が、数ある千手観音像の中でも貴重な像と高く評価されているようである。説明板は有。

